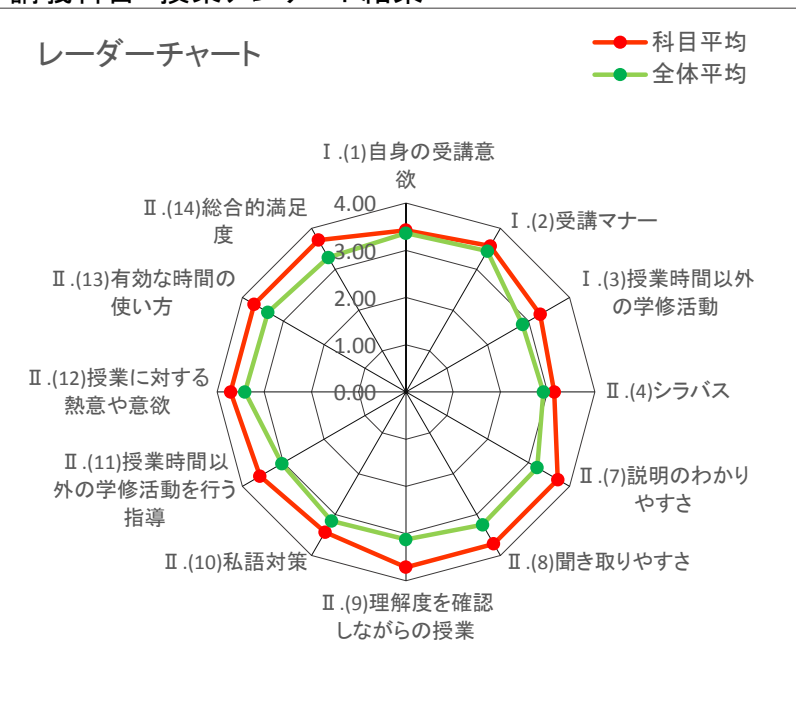
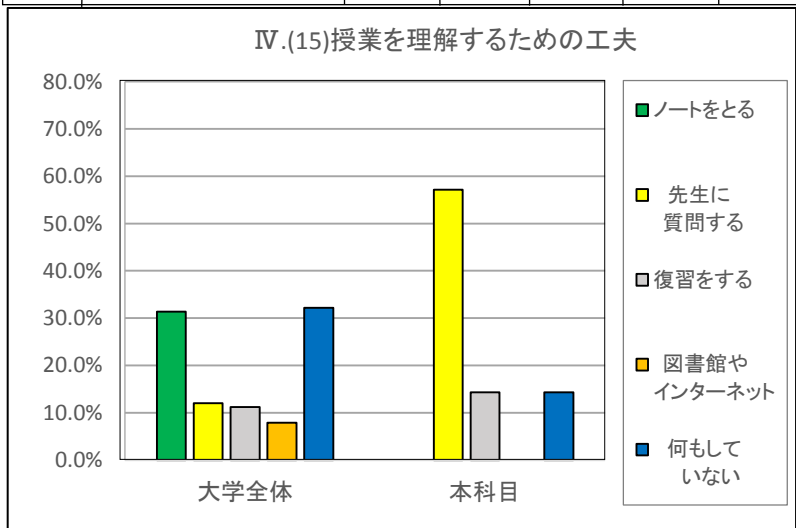


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2、(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15) 授業を理解するための工夫	0.0%	57.1%	14.3%	0.0%	14.3%



	設問No	科目平均	全体平均
受講姿勢	I.(1)	3.43	3.36
	I.(2)	3.57	3.45
	I.(3)	3.29	2.86
受講内容・方法	II.(4)	3.14	2.91
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.71	3.21
	II.(8)	3.71	3.25
	II.(9)	3.71	3.13
	II.(10)	3.43	3.16
	II.(11)	3.57	3.04
	II.(12)	3.71	3.41
	II.(13)	3.71	3.37
	満足度	II.(14)	3.71

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	3.43	3.22
I.(1)~(3)		
講義内容・方法	3.59	3.18
II.(4)~(13)		
総合的満足度	3.71	3.29
III.(14)		

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2015年度 前期
時間割番号	44108
科目名	書写・書道 I
教員名	

①授業計画の達成度について  
 言いにくい問題であるが、学習者個々の基礎学力の差が歴然としている。そのため、これまでのような一律の授業資料では対応することが出来ず、授業開始後数時間で上下2段組みの資料作成に転じるようになった。つまり、上段は基礎的・基本的な必須事項、下段は発展事項という形である。ただ、この発展事項自体が通常の「基礎的・基本的事項」であることからすれば、授業計画の達成度という点では不十分ということになる。勝手な言い分ではあるが、単に字を書いているだけで済むという授業ではなく、シラバスに教員免許に繋がる教科教育の授業であることを謳っているのだから、受講する側の取り組みや履修指導が綿密、かつ真摯に行われても良いと感じている。

②授業の進め方について  
 上掲の通り。  
 ノートに記録することを推奨していない。記録より記憶に残させることが重要  
 と考えているので、アンケート結果は予想通りである。  
 加えて、課題・宿題を課すのではなく、授業内で総てを終えることを目標としているため、これまたアンケート結果は予想通りである。  
 課題として自らが省みていることは、口述するスピードについてこれられない学習者がいるという点である。資料の充実、ならびに板書等を活用して、今一步の改善が必要であろうと思う。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について  
 前任校でも学生たちに言い続けたことがあるが、「努力することは尊い」。しかし、努力すれば到達の基準が個々に変化するのかと言えば、決してそうではない。例えば卒業論文を頑張ったという言い方で、総てが認められる訳ではない。つまり、個々人の努力とは違う「論文としてのレベル」が保障されなければ、努力は免罪符となる訳でない。特に本学部においては、教員養成課程の先にある「教員採用試験」という大命題に対し、個々人の努力云々を掲げるのは筋違いであると思う。そういう意味で、学力的に多様な学習者たちには厳しい言い方とはなるが、「教員養成課程としての授業の質の保障」は何にも増して堅持されることであると思う。